

談話

志村貞子

まつ黒な小さい、可愛い、愛嬌者のお玉じやくし、幼稚園のお池に自然にゐるならば卵の時からすつと注意してみるのによい、が變態(この言葉を教へるのではない)をよくみせる爲には水盤なり水がめなりに四五匹をとつて保育室で飼ふとよい。が小さい入物に澤山飼ふと失敗する。えら呼吸のうちは水中の酸素がなくなるゝ死んでしまふから。

保育室で飼育するこれが最初のものかも知れないが始めはみんながめづらしがつてどつとそばへたかつてしまひ、結局何もみないでしまふといふことがあるから始めには少しの子どもを順につれて来てそばでゆつくりみることにする。その後は毎日一度は餌をやる時や何かの時にみんなの注意をむけ、今日はどうしてゐるといふことを氣をつけるやうにする。蛙に近くなつたら水盤の中に丘をつくつてやり、知らない中にはね出してしまふことのないやうに覆をして置くことを忘れないやうに。

軍艦

大東亞戦争が始つてからは一そう軍艦に對してみんなが注意をむけるやうになつた。が海軍記念日に當つて特に信用のある繪、寫眞を保育室にはつて、種々の軍艦について話合ひ、同時に感謝の氣持をもつて兵隊さんの軍艦生活について話してきかせるやうにしたい。

入園以來一箇月、先生にもお友達にも親しみ、幼稚園の生活そのものを楽しんでゐる毎日です。子供達はお話をするのも聞くのも楽しくてたまらないこととせう。扱てそのお話ですが、今月は「鯉のぼりと雀」「赤ん坊爺さん」「金出る銀出る」「猿の人まね」「三匹の子豚」「どんぐり小坊主」「三匹の熊」——「改訂版系統的保育案の實際」の中幼稚園談話集所収のもの——となつて居ります。みんなそれ／＼子供達の楽しく嬉しい心を更に喜ばせるやうな可愛い、或は面白いお話だと思ひます。

子供達の心はお話を待つてゐます。素直に、楽しく受け入れるばかりになつてゐます。さうしてお話も用意されてあります。かうなるおとは話す人次第といふことになりませんが、人それ／＼に持味があるのですからそれをよい方に充分發揮され、ばよいわけです。要するにこの用意されてある雰囲気は素直に入り得る人であり、更にこれを引立て、ゆき得る人であればよいわけです。話し方の巧拙等よりも何よりもこの「人」が根本だと思ひます。

お話そのものについては特に申上げることもないと思ひますが、二・三氣付いた點を記してみませう。

「鯉のぼりと雀」これは鯉のぼりのおなかの中に入つて遊んでゐた雀が、鯉のぼりとお話をして仲好しになるといふ可愛い、お話です。

幼稚園の空に悠々と泳ぐ鯉のぼりを見上げながら、「あの鯉さんのお話ですよ」と始めたら子供達はどんなに喜んで聞くことでせう。あの大きな口から雀が入つて遊んだといふ着想がこのお話を可愛いく活かしてゐます。話し方に特別の技巧は要りませんが、鯉と雀との會話は會話らしく聲の調子をかへることが必要でせう。保姆は鯉のぼりに限らず、子供達の身近なもの、親しみをものから取材して、子供達の親愛の心を可愛い、お話の中に表現してやりたいものだと思います。

「赤ん坊爺さん」は草刈に出たお婆さんが山で若返りの水を飲んで娘になつて戻つてきたのでお爺さんもその水を飲みに出かけたがなか／＼歸つて来ない。お婆さんが心配してさがしに行つてみたところが、お爺さんは水のみすぎて赤ん坊になつてしまつてゐたといふお話です。お婆さんが歸つて来た時のお爺さんの驚き、お婆さんの話、お爺さんが出かけたこと等、筋をはつきり、且緩急よろしきを得た調子で話すことです。子供たちはぐん／＼ついてきて終の頂點で大喜びを致します。

「三匹の子豚」と「どんぐり小坊主」は外國童話の代表的なものゝ一つでせう。いかにも童話らしい童話だと思ひます。子供達に豊かな心の世界を與へる爲には、古今東西あらゆるよいお話を求めて容れるだけの廣い心の保姆でありたいものです。

「三匹の熊」これは繰返しの面白さを主とするお話です。大きなお父さん熊、中位のお母さん熊、小さな子供の熊、この三匹の熊の家へ、留守に花子さんがやつてきてそれ／＼大、中、小の道具をつかつたり、御馳走をたべたりします。その後へ歸つて来た

熊の親子が、それ／＼大、中、小の聲を出して驚くところが繰返してあるのです。「おや！誰かと私の椅子に腰かけた！」お父さんの熊が大きな太い聲で驚いて、どなりました。「おや！私にも！」お母さんの熊が中位の聲で驚いて言ひました。「おや！私のにも。誰でせう、こんなにこわしてしまつて！」子供の熊が小さい聲でびつくりして言ひました。とありますやうに、大、中、小の聲をその感じが出るやうに使つて話すことが大切だと思ひます。聲の大、小だけで面白さがずつと違つて來ますから。

その他、既成談話ではないものですが、今月にはじめて「若葉の話」「春から夏へ」といふ題で觀察話ともいふべきものがとり上げられて居ります。先生がお話を創作せられるのも結構ですし、また語り合ひの形にして、子供達と一しよに、子供たちのみた或は感じた季節の移りかはりを話しあふことも大いにやつていたゞきたいと思ひます。子供は勿論先生からいろ／＼補つていたゞき、教へていたゞくのですが、先生も亦、子供の親方、感じ方に幾多教へられる點があると思ひます。

### 手 技

## 及 川 ふ み

新入幼児たちも、入園後二三週間も経つとよほど幼稚園の生活にもなれて來る。ブランコ、スベリ臺、砂場と自由遊びにも自分からの興味が出て來て、ほんとに幼稚園が愉快そうになつて來る。そればかりでなく年長組の人たちのするいろ／＼のお仕事